



厚高インフォメーション



128

野球部「貢献賞」受賞

野球部が、二〇〇四年からオフシーズンにあたる十月から三月までの半年間、高校周辺から市街地にかけての掃除や、除雪のボランティア活動を続けてきたことに対して、奉仕団体の国際ソロプチミスト苫小牧はまなすから「貢献賞」という表彰を受けました。一月二十日におこなわれた表彰式には、十五名の部員が招待され、思ってもいなかった受賞にかえって恐縮していました。

一月二十四日に行われた「あつま国際雪上三本引き大会」に野球部員・バドミントン部員・テニス部員が参加しました。最初はコツがつかめなかったようでしたが、徐々に慣れ、決勝トーナメントに進みましたが一回戦で敗退しました。みんな楽しかったようです。

二月三日には、二年生がランタン祭りに協力しました。思い通りにはならなかったようですが、なんとか完成させました。

二月十日には、一・二学年対象のスキー体験学習が日高国際スキー場でおこなわれました。本校生徒の多くが高校で初めてスキーを体験します。それぞれのレベルに合わせてた練習をし、楽しい一日を過ごすことができました。



厚真中央小 2年
高橋 尚揮くん(8)
「野球のバットを振っている僕を版画にしたんだ。刷るときに服も顔も黒くなったけど楽しかった」



厚真中央小 2年
西岡 愛果さん(8)
「冬休みの作品です。一番大好きな花の朝顔を折り紙で作ってみました。花と葉を重ねて工夫したよ」

わたしたちの作品

今月の記念日

2月3日は「絵手紙の日」

「絵手紙」をかって送ることを世界中に呼びかけようと、日本絵手紙協会が制定しました。手紙の「ふみ」と日付の語呂合わせになっています。

絵手紙とは、動物や植物、野菜や果物など季節の風物を描いた絵に、短い言葉を添えた手紙のこと。近年、趣味として絵手紙を楽しむ人が増えているほか、絵手紙教室や通信講座などが人気を呼んでいます。人気の理由は「だれもが気軽に楽しめる」からです。

絵手紙のキャッチフレーズは、「ヘタでいい」。上手にかくのではなく、その人らしさが出るのが絵手紙です。心を込めて一生懸命かいたものは、相手の心を打ちます。

また、絵手紙は下書きをしたり、他の紙に練習をしたらからかいたりということはありません。いつでも「ぶっつけ本番」。失敗という考え方がないので、かいたものは必ず投函するようにします。

絵手紙は用具にも特別な決まりはありませんが、初めての人は筆と墨を使います。かき方は独特です。筆のてっぺんを軽くもち、ひじを上げ、指や腕肩などに力を入れないで、リラックサしてかきます。あえて不自由な筆の持ち方をすることで、うまくかこうという意識を取り除きます。無心になることで、見たまま、感じたままを表現した、その人だけの絵手紙ができあがります。

かき手の感性や人柄が感じられる絵手紙を交換し合うことで、心の交流を楽しむ人たちも増えています。学校や福祉施設などでは、絵手紙づくりを活動に取り入れているところもあります。

人に思いを伝えるのも、早くて便利なものに頼りがち。しかし、そうした世の中だからこそ、手づくりで、かき手の人柄が感じられる絵手紙に人気が集まっているのではないのでしょうか。

文芸あつま ◆短歌◆

初めての湯治に行きし夫の留守一人の時間しばし楽しむ
露天湯に浸かり眺める夜の景色雪が舞ひ来て心なごめる
吹きだまる中を腰までぬかりつつ朝刊運ぶ人に感謝す

(上野 宮崎 静恵)
(本郷 森本 厚子)
(本郷 矢部 慧子)

(あつま文芸友の会発行『文芸あつま 第十四号』から抜粋)

ぼくの・わたしの クラスじまん ともだちっていいな



その100 上厚真小学校



紹介してくれたのは…
ねんせい
上厚真小学校6年生のみなさん
(書いてくれたのは) 香員代表の真壁一樹くん、山下泰功くん、山田勇助くん

ぼくたち上厚真小学校6年生のクラスは、男子7人女子7人の合計14人。元気がいっぱいいるクラスです。元気がいっぱいいるのもケンカばかりしています。でも、すぐに仲直りするし、いつも助けあっています。

ボールを使える日は、バスケットボールやキックベースボールなどをやっています。今は雪を作っています。

1学期は函館に修学旅行に行き、運動会もやりました。2学期は学習発表会で、劇「死神」をやりました。デイサービスに伺って、みなさんにも見ていただきました。12月には上小フェスティバルという行事をやりました。お化け屋敷と、小物を売ってお店を出しました。宮の森保育園の園児のみなさんもたくさんきてくれました。

今年ほどの行事も最後だったので、一生懸命できたなと思います。

卒業まであと少しなので、最上級生としてしっかりがんばりたいと思います。